

救済から半年足らずで 美唄「コアビバイ」市税 中心市街地再開発の

破たん！ 700万円投入の責任と 行方

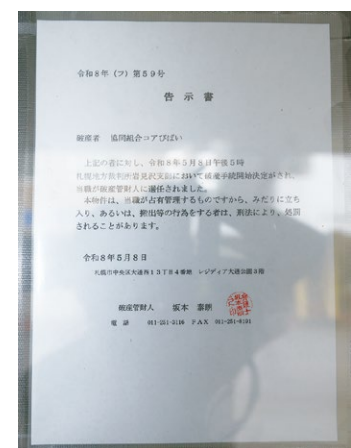


▲桜井恒市長

「閉鎖が想定される施設に、なぜ700万円もの市民の税金を投入したのか。『想定より早まった』とかの桜井市長の発言は税金投入の責任を糊塗するもので『残念でした』では済まされない。その責任は誰がとるのか。市

することは、昨年12月の時点でわかっていた話だ。それに市民の税金をつぎ込むような杜撰な金の使い方は到底許されるものではない」

と、憤懣やるかたない表情で語り、続けて「私は市内の民間業者が資金繰りに窮し、撤退する例を数多く見てきた。コアビバイは民間の協同組合が運営するもので特別扱いされる理由はない」と話す。



▲破産開始決定の告示書

破たんした「コアビバイ」は、1978年に開業。建物の老朽化

背に腹は代えられぬ

が目立ち、昨年8月には施設内で営業していた「衣料品店」「書店」

だが、市民の血税700万円を投じた補正予算は「コアビバイ」の延命措置にならず、わずか4ヵ月後の4月末で閉鎖、運営する協同組合コアびばい(阿部雅成代表理事)は、5月8日に札幌地裁岩見沢支部から破産開始決定を受けた。負債総額は約3億5000万円。



▲空きテナントが目立つ「コアビバイ」(閉鎖前)

上下水道工事をめぐる汚職、北海道せき損センターの移転問題など揺れに揺れる美唄市で、中心市街地にある大型商業施設「コアビバイ」が今年4月に閉鎖、その後破産宣告を受け破たんした。

市は、その救済にあたり市税700万円を投じたため、桜井恒市長に対し責任を追及する声もある。

さらに「コアビバイ」破たんに伴い、中心市街地の再開発事業にも暗雲が立ち込めている。

(本誌取材班)

「賛成」9×「反対」4で可決

「閉鎖が想定される施設に、なぜ700万円もの市民の税金を投入したのか。『想定より早まった』とかの桜井市長の発言は税金投入の責任を糊塗するもので『残念でした』では済まされない。その責任は誰がとるのか。市

税投入の判断が正しかったのなら、市長はその根拠を示して欲しい」

これは美唄市民から本誌に寄せられた投書である。

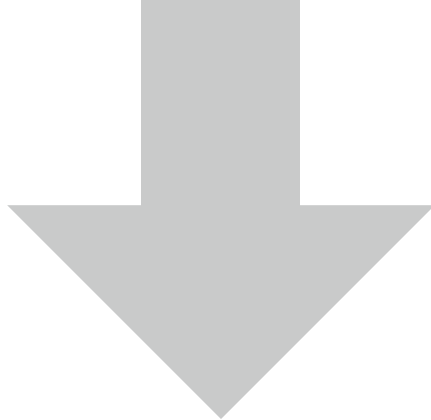
「コアビバイ」の存続に向けたテコ入れ策として、市が空きテナン

トのスペースを借り上げる名目で700万円(25年12月～26年3月分)を一般会計補正予算に計上し、昨年12月の定例市議会で可決された。市議14人中、議長を除く13人が採決、賛成9人、反対4人だった。

この補正予算案に賛成した市議は

「雪が降る12月の時期に西の商圈にはコアビバイの『Aコープびばいコア店』しかない(その後、今年3月に閉店)状況で市民生活への影響を考えれば、生活の場を確保するために税金を投入する必要がある」と説明する。

一方、反対した自民党の井原潤司市議は「コアビバイが破たん



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)